KAIエステティックナイフの利便性

医療法人メディエフ 寺嶋歯科医院
(大阪府箕面市)
院長 **寺嶋 宏曜**

歯周組織再生療法には様々な術式が存在するが、近年においてはそのほとんどに歯間乳頭温存型切開が用いられている。また、根面被覆術においても、トンネルテクニックやVISTA等は歯間乳頭を切離せずにパウチを形成し、その内部に結合組織を移植する術式として広く知られている。
これらのテクニックにおいては、フラップを開けないクローズドテクニックとなるため、術者の技術はもちろんのこと、器具の選択も重要となる。ブレードに関しては、**より小さく、細く、薄いメス刃であるマイクロブレードが必要となることが多い。**

KAIエステティックナイフ(図1)は、**適度な柔軟性を有しており、ブレード部分が薄い**ため、例えば歯肉溝切開時においては歯肉溝から逸脱することなく、美しい切開線を描くことができ、歯間乳頭の温存に最適なブレードの1つと筆者は感じている。また、ブレードの刃(写真１，２参照)はプライヤーなどを使用すると角度を変えられるので部位を問わず使用可能である。

図1

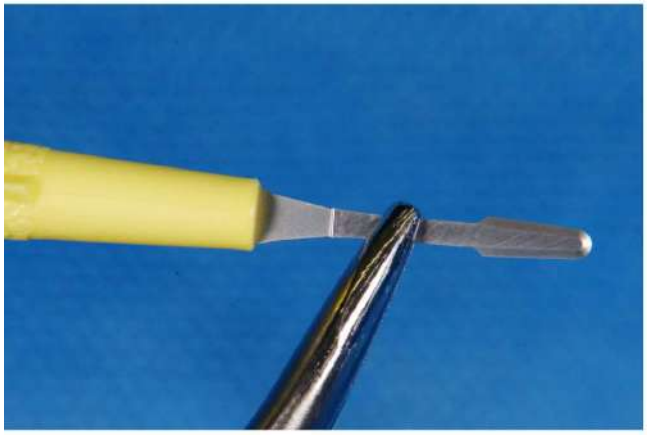

写真１
角度を変えられる

写真２
歯間乳頭をロスしないための
エステティックナイフ

持ち手のハンドルがプラスチック製で非常に軽いため、**歯肉の抵抗力などがダイレクトに手に伝わってくる**ことによりクローズドテクニックにおけるフラップのパーフォレーションを防ぐことができる場合がある。

以上の特徴にメリットを感じ、筆者はKAIエステティックナイフをマイクロサージェリーに用いている。

写真３
再生療法など
マイクロサージェリーに用いている

目次